

## CBAP® 試験合格体験記

IIBA®日本支部 BA 研究部会 BABOK-WG 幹事

林 光一郎

私は BABOK-WG で活動する中で CBAP®を取得しようと思い立ちました。周りに相談できる方が多い恵まれた環境でしたが、それでもどうやって受験したら良いのか初めは見当が付きませんでした。現状の CBAP®試験は単に手続きが英語であるだけでなく、文化の違いなどから様々な面倒が存在します。私の体験を簡単にまとめましたので今後受験を考える方のお役に立てば幸いです。

### 1. 出願審査

日本の普通のエンジニアにとって CBAP®の出願審査は受験そのものより難しいのではないのでしょうか。出願審査には様々な資格要件が求められますので、特に障害となりそうなものについて対応する方法を書きたいと思います。

#### 【業務経験要件】

CBAP®に求められる業務経験時間は 10 年間で 7,500 時間。そして 4 つの知識エリアで 900 時間を超えている必要があります。これは、引き出しで 4,000 時間、要求のマネジメントで 3,500 時間、それ以外の知識エリアの経験が無いという人は資格要件を満たさないという意味です。

10 年間で 7,500 時間ということは均等にならして毎月 60 時間強、それほど業務経験はとてとても…と感じる人は多いと思います。ですが、ビジネスアナリシス業務は必ずしも専任の要求定義担当者だけが行なうものではありません。SE や営業として行なうビジネスアナリシス活動(要求の収集、要求文書の作成)、あるいはビジネスアナリストと共同で実施する活動(要求のレビュー)なども業務経験としてカウントされます。これらのタスクをきちんと積み上げていけば、自分は厳しいと思っている人でも案外 7,500 時間に到達するのではないのでしょうか。ぜひ自分の経歴を振り返ってみてください。

なお、業務経験時間は担当した職務の内容に応じて間引かれる可能性があります。特にプロジェクトマネジメントに関連する業務については、多くのエンジニアが思っているより厳しく見られるので注意が必要です。業務経験の入力は数字も細かいし英語での説明が必要なので非常に面倒くさいですが、経験に余裕がある場合でも 7,500 時間きっちりて入力を終えるのではなく全ての経験を入力するようにしましょう。

#### 【専門能力開発要件】

CBAP®受験には、過去 4 年間で 21 時間以上のビジネスアナリシスの専門能力開発をして

いることが必要です。現時点では EEP 認定コースを受講することが必須でしょう。私は富士ゼロックス総合教育研究所が開催する「CBAP®試験対策（英語版）」コースを受講しました。

### 【推薦状要件】

CBAP®受験のためには推薦者が2名必要になります。推薦人になれるのは「応募者の上司、クライアント（内部、外部）またはCBAP®資格保有者」。ですが、世間的な認知度の低い試験の推薦を（しかも英語で）行なって欲しいとなると、なかなかハードルが高いと感じる人も多いのではないかと思います。

私は先に CBAP®を取得された伊藤さん、庄司さんのそれぞれと勉強会などでご一緒しており、私のビジネスアナリストとしての活動を分かっていた立場にあっただけで、このお二人に CBAP®としての推薦をお願いすることができました。話も早く快くお引き受けいただいたので、非常にありがたかったです。私もこの恩返しをしたいので、今後 BA 研究部会で活動をご一緒した方で CBAP®受験をお考えなら推薦人になりますので、ぜひご相談ください。

## 2. 受験登録

事前に合格体験記を読んで準備していたため、幸いなことに出願審査は一度で突破できました。出願審査が終わるとまずは受験料の支払いです。受験料は何故かクレジットカードでは行なうことができません。通常は日本からは国際為替を使うことになりませんが、僕はアメリカに住んでいたときの銀行口座を持っているので小切手を振り出すことができました。なお、送付は通常の国際郵便でも可能ですが、配送状況を Web から確認が出来る EMS を使うことを強くお勧めします。

小切手を送付してから10日ほどで Castle Worldwide 社からメールが届き、会場予約が出来るようになります。ですが、日本唯一の受験会場であるテンプル大学の予約はオンラインで完結せず、候補日を3つ入力して登録し、メールで返信を待つという方式になっていました。このメールが僕の時には1週間待っても到着せず、問い合わせをしようと思ったら問い合わせ用のメールアドレスが無く、国際電話をかける必要があり参りました。電話をかけて担当者と話した後は手際よく処理してくれましたが…。

## 3. 受験勉強

上で書いたとおり私は富士ゼロックス総合教育研究所の CBAP®試験対策コースを受講しています。このコースは出願のノウハウも含む非常に実践的なものですが、BABOK®全体を俯瞰するスコープを教えてくれるという意味でも有益なものでした。また、内容チェック済みの模擬試験も3セット（英語2セット、日本語訳1セット）配布され、私はこの模擬試験を中心に受験勉強を行ないました。

CBAP®に合格するための BABOK®の学習は、要求定義に使えるノウハウ・テクニックを拾おうという視点での学習とは全く考え方が違います。CBAP®受験のためには BABOK®全体を BABOK®の用語で理解する必要があります。つまり、自習するなら読まないような、自分に興味が無い部分、「なぜこんな当たり前なことを書いているのか」と思うような部分についても満遍なく知識を持っていなければならないのです。

このような知識を付けるために最も有効な方法は CBAP®の問題集を入手して模擬試験を解き、答合せの際に模擬試験の問題ごとに BABOK 2.0 テキスト(当然英語版)の該当部分にマーキングをしていくことです。市販されている受験対策本の問題の難易度は本番試験よりやや低いと言われてはいますが、出題される範囲やその切り口は本番の試験とかなり似ています。模擬試験問題を3セットほど解きテキストの関連部分にマーキングすれば頻出テーマの多くは押さえることができます。これに加え、各タスクのインプット・アウトプット・テクニック・ステークホルダーを暗記すれば出題範囲はほぼカバーできるでしょう。あとはそれらを暗記するまで何度も読み込めばよいのです。

なお、CBAP®受験のためには英語力はほとんど必要ではありません。問題の8割ぐらいは単語さえ分かれば解けるストレートな問題、残りの2割も中学英語程度の文法力があれば充分です。

#### 4. 受験

伊藤さん・庄司さんの合格体験記から、テンプル大学の授業が無い日曜日に受験すべきということが分かっていたので、2月27日の午前の回を予約していました。会場のテンプル大学は白金高輪駅から徒歩10分弱、普通のオフィスの5階に入っています。日曜日は裏の通用門から入場することになり、表門にシャッターが下りていますので注意してください。

会場は他の試験ベンダーと共用でPMPやTOEICの受験生が控え室にたくさんいましたが、全員が受験生なので無駄なおしゃべりをしているわけでもなく、特に気にはなりません。到着してしばらくすると、なんと去年のCBAP®試験対策コースで一緒の方が来られました。受講から3ヵ月後に同じタイミングで受験、不思議な偶然ですね。

受験は彼と二人でした。利用機材は大き目のノートPCで、伊藤さん・庄司さんの時と違い、ハングアップは起きませんでした。騒音も全く気にならず、良い環境での受験だったと思います。

試験問題は上に書いたとおりで、ほとんどが事前にチェックしていた項目からの出題でしたが、切り口が違っていたり忘れてしまっていたりで自信を持って解答できず、最初はかなり焦りました。

それでもしばらく解いていくと落ち着いてきて、3時間半の持ち時間のうち1時間を残して最後の問題に到達することができました。ここで最初の問題に戻って1問ずつ内容を確認し、3問ほど出題の意図を勘違いしていたものを見つけて解答を修正しました。

見直しの途中で持ち時間終了。試験結果が出る前にアンケート入力画面が出て一瞬ぎょっとしました。アンケートを入力し終わると結果の表示。ただ Congratulations と出るだけで点数も表示されない殺風景な画面で、おまけに結果の印刷も出来ません。あらかじめ知っていたこととはいえ、これはあんまりだと感じました。なお、一緒に受験した方も無事合格、ほっとした気分で会場を後にすることができました。

## 5. CBAP®のメリット

CBAP®の受験対策をしながら「ああ、勉強になった」と感じられるのは、要求定義分野をこれから学ぼうとする人か、あるいは要求定義の知識経験が豊富で複数の体系を比較・整理するためのフレームワークを求めている人ではないかと思います。要求定義をそこそこ勉強し具体的なノウハウ・テクニックを求めて *BABOK*®を読んでいる人(この体験記を読んでいる人に大部分はそうでしょう)にはピンと来ず、こんな当たり前のことを暗記して何の意味があるのかと感ずることもあるのではないのでしょうか。

ですが、そういう人でも受験勉強の中で *BABOK*®全体を広く浅く頭に入れるための勉強をすると、試験後に具体的なノウハウ・テクニックの習得を行なう学習に戻ったときに「ああこのタスク、このテクニックにはこういう意味があるのか」ということが見えてくるはずです。頭の中に枠組みが出来るので学んだこと経験したことを咀嚼して自分の物にしやすくなるのですね。その意味で自習が目的としても CBAP®を学ぶ意味があると思います。

そして *BABOK*®を学習して得られる最大のメリットは、他のエンジニアと用語やフレームワークを共有することで具体的で精密な議論が出来るようになることです。従来は要求定義の話をするとうまくかみ合わなかったり神学論争になったりしがちでしたが、*BABOK*®をフレームワークとして用いることで議論のレベルを合わせることが出来ます。IIBA 日本支部の BA 研究部会では *BABOK*®を活用するための様々な勉強会活動を行なっていますので、CBAP®を受験する方はぜひ参加なさってください。